

「技術者の思考を強化する品質工学」

を大会キャッチフレーズに！！

**第18回品質工学研究発表大会 (QES2010) 併設<カタログ展示会>に、
品質試験機の製品カタログを紹介しませんか？**

☆安全性立証を強化☆

■品質試験設備

ファースト・トランジェント/バースト試験器 ・冷熱衝撃装置 ・恒温恒湿槽

雷サージイミュニティ試験器 ・雑音強度試験器

■その他設備紹介

冷熱衝撃装置 ・電源耐圧・絶縁抵抗試験器 ・電源電圧変動許容度試験器

電源障害シミュレータ ・交流電圧可変電源 ・静電気試験器 ・ハイブリッドレコーダー

オシロスコープ ・ロジックアナライザー ・電流計 ・電圧計 ・漏洩電流計

品質工学会

第18回品質工学研究発表大会実行委員会

拝啓 貴社ますますご隆昌の趣お慶び申し上げます。

平素は当学会の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

品質工学の目的は技術を扱う全ての部門の活動の生産性向上、すなわち技術開発や設計のスピードを大幅に高めることにあります。

技術部門における技術戦略を考える上でも欠かすことのできない工学、それが品質工学です。技術担当者だけでなく、技術部門のマネージャや経営者の皆様においても品質工学を積極導入されることで、技術部門の生産性向上はもとより、技術経営改革に大きく貢献できると確信しています。

参加する学会会員は、学術講演・発表論文やカタログ展示会で紹介された技術や製品、解析ソフトウェア、各種セミナー等を企業業務や研究教育に大いに利用しようとするものです。

本大会の講演会場の一部にカタログ展示コーナーを設け、品質工学に関連するカタログを一同に展示します。(説明員の配置は貴社のご判断でお決め下さい。)

付設カタログ展示会に貴社のご参加を御願ひ申し上げます。

敬具

< 募 集 詳 細 >

☆会 期 : 2010年6月7日(月)～8日(火)

☆会 場 : きゅりあん(品川区立総合区民会館)

☆カタログ数量 : 1社、2～3種類(A4版基準)・各50～100部

☆展示料金 : 1小間・¥30,000.- (消費税5%は別途加算されます。)
(2小間より割引があります。)

☆説明員の配置は、貴社のご判断でお決め下さい。但し講演会場では別途登録費用が必要。

☆申し込み期限 : 2010年5月31日(月)

☆運営・管理 : 理工企画株式会社・カタログ募集担当 有 福

: 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-6-12

: 電 話 03-3246-1261 FAX 03-3241-2296

: tenjikai@rikoh-kikaku.co.jp <http://www.rikoh-kikaku.co.jp/>

< F A X 返信申込書 >

(hp)

理工企画株式会社 有 福 行

FAX 03-3241-2296

〒103-0022東京都中央区日本橋室町1-6-12 電話 03-3246-1261

E-mail: tenjikai@rikoh-kikaku.co.jp

第 1 8 回品質工学研究発表大会 (QES2010) カタログ展示会

☆カタログ展示申込みます。 []

1小間・¥30,000.-

2小間・割引料金

説明員をつけます

●カタログ展示は、申込みません。 []

(貴社名)

(ご所属・ご担当名)

印

(電話番号)

(FAX番号)

住 所 〒

E-mail:

http://www.

■ 申込期限：2010年5月31日（月）

「品質工学について」

品質工学とは評価の学問であり、予測の学問です。

そのためには、測ることが重要なことですが、これまでのように品質を測るのではなく、“もの”のもとの働きというものを測ることを考えるものです。

ここのところが解かりにくいのですが、そのためにこれまでとは異なった、様々な測定をしなくてはなりません。

そのために、あらゆる計測器、試験機、分析機器が必要になり、さらにこのような機器自体が適切かどうかまでも評価します。

たとえば、精密工学では加工精度を求めるために、寸法を測りますが、我々は電力とか切削した重量を測ります。このために多くの人々が電力計の情報を求めています。

さらに、デジカメとかスキャナーを使ってパターン情報を解析しますから、画像に関係する機器も分野に入ります。

良いものを作るかどうかは加工機が重要ですし、さらにいえば加工機の良さも評価します。また、その時の材料の評価も重要です。

設計ともなれば、いわゆるソフトというものが大きな役割です。

この様に、いわゆる製品とか商品でなく、それを作るための道具、素材についての情報を会員が強く求めています。

「世界に広がる品質工学」

品質工学は、日本では1980年代にその価値が認識され、その後各分野の技術者、研究者に支持され、発展してきました。

今日では、機械、電気、化学、農学、薬学、医学など幅広い分野に応用され大きな成果を上げています。

1993年に学会組織としての「品質工学フォーラム」を設立、1996年11月には学術団体として登録され、1998年から「品質工学会」に改称し、普及・推進を図っています。

アメリカでは品質工学に対する評価は日本以上に高く、“タグチメソッド”と呼ばれ、1990年代のアメリカの技術停滞を打ち破るのに大きく貢献したと言われています。

1997年には、田口博士はアメリカの自動車工業界への貢献が認められ、自動車殿堂入りを果たしました。

一部の大学ではタグチセンターが設立され、品質工学の研究が進められています。

また、QS9000にはタグチメソッドの活用が言及されています。

アジアでは韓国、中国を中心に急速に普及してきていますし、ヨーロッパでも一部の企業で導入されて成果を上げており、今や品質工学はこれからの技術開発の方法論として世界に認められる存在になってきています。

現在品質工学会では、品質工学による機能性評価の方法をJIS規格、ISO規格にしていこうとする活動を、日本規格協会と連携をとって進めています。